

ゆたかな労働と生活の場をめざして

発行. 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ
だより
No. 478

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
	小平元気村おがわ東1階	
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0306
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



絵画クラブ

あさやけ作業所

週一回のクラブ活動でいろいろな創作活動をしています。今回は紙粘土を好きにちぎって色をぬりました。すごく楽しかったです。



矢渡 洋司さん
(あさやけ第二作業所)

「まみむメモ」の余白に

仲間紹介

ひとりひとりが太陽



山田かまちの言葉に感じた十八歳から数えて二十七年、言葉と向き合ってきました。人生、恋愛、自然をテーマに春夏秋冬、喜怒哀楽を書いています。書くというより降りてくるという感じに近いものです。アイデアで知り合った好奇心が旺盛でイラストが素敵な妻がZINE (ジン) という表現方法を教えてくれました。それが、「まみむメモ」です。かまちの言葉に私がいたように、「まみむメモ」の余白にあなたがいれはあもしろいですね。

収録されている言葉紹介

01・今という字には

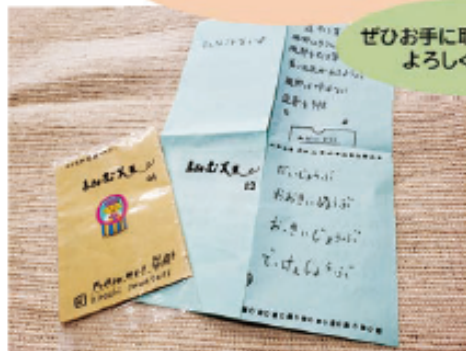
ラが入ってる
あなたの今が
ラララでありますように
なんでもさ
慣れるまでを頑張って
慣れたなら張り切って
自分の想いと
相手の気持ち

02

朝 爽やか 軽やか
よく起きた日には
夜 ルル ルルル
よく眠れたよ
だいじようぶ
おおいじようぶ
おつきいじようぶ
でつけえじようぶ
そんなことないよ

1部 200円
CAZE CAFEなかまちで販売中!

ぜひお手に取ってみてください
よろしくお願ひします



今年もあと十日で終わり、新しい年が始まります。子どもが新一年生になる家族にとつては嬉しさと期待もひとしをだと思ひます。ところが、四十七年前までは六歳の春を悲しみの中で迎える親子が大勢いました。主に障害をもつ子どもと家族です。「学校に行きたい」「なぜ僕は学校に行けないの」「早くランドセル買ってよ」。子どもの願ひに答えられず、使うことはないランドセルを買いに行く母親。それを背負って家中を飛び回る子ども。母の胸中はどうなっただでしょうか。

「えっなんで、学校はずっと以前からあったでしょう。何で入学させなかったの」そう、小平養護学校は、整備園内の各種学校から光明養護学校多摩分校へ、そして一九三四年、小平養護学校として独立しました。でも、障害児は義務教育の範疇に入らなかつた。教育を受けたい」という親子に「就学猶予、就学免除」を押し付けたり、学習や通学に耐えられるかなどを判定する「入学選考」が行われたり、学校の門を叩いた子どもたちすら全員を受け入れることは出来ませんでした。それでも小平養護の先生方は一人でも多くの子どもたち、重い障害のある子どもたちを受け入れようと、必死に校長・教頭を説得し、全員入れることに。その年の入学判定会議は、夜の九時過ぎまで続きました。

養護学校義務制四十年で思うこと

元、小平養護学校教員
遠山 陽子

みのべ革新都政を誕生させたうねりの中で、「どんなに重い障害を持つ子どもにも教育を受ける権利を保障してほしい」という親御さんの要求に、障害児学校の先生方と父母は一九九二年東京都は「希望者全員就学」を打ち出し、国も一九七九年から、障害児学校の義務化を発表しました。今年が「義務制四十年」なのです。障害児の全入のめどがたった翌年小平に「障害者の権利を守り生活の向上をめざす小平の会」が結成され、市内に住む障害児・者の実態調査をし、その結果、就学免除のまま大人になった人、学校を卒業しても働く場・行き場のない青年たちの問題が浮き彫りになりました。作業所設立準備委員会もたれ、一九七四年六月、四畳半

二間の小さな作業所が生まれました。これが現在のあさやけ作業所の前身です。今、じわじわと障害者施策への締め付けが押し寄せてきている状況の中、四十七年前までの彼らの涙・苦しみ・悲しみの上に今があることを忘れず、前進を続けましょう。

水「命の永遠の友達」
指「五人組の立ち位置」

指「まみむメモ」
ゴミ袋「カラスのモーニング」
カップ「狭いダム」
ほくら「集まれば星座」
幸せ「今があること」

読みやすい、入ってくる、子ども達に読んでもらいたい、そんなコンセプトの言葉を十五編収録。デジタル時代ですが、勇気がほしい時やつらい時に、一緒にそばにいてくれる友達。そんな感じになればいいなと作りました。

『23年間ありがとう』

古橋 宏章

昨年3月にお世話になった作業所を退職しました。理由は1か月前に呼吸がたまに苦しくなる症状があり、同じくパソコンでの編集作業の操作が大変になったからです。前々から体力の限界を感じたら身を引こう決めていました。

仕事では一通り携わりましたが、苦手な計算やキレそうになった事もありましたが、苦痛だったのは販売先への電話(緊張すると言葉がどもる症状があったから)、社会人として良い経験になりました。

職員さんには都合により作業所に泊まらせてもらったり、病院まで送迎してもらったり、病院まで来て頂き吸引を学んでくれるなど感謝しています。

自分は職員さんにより人見知りや克服したり、苦手な文章をとうたす通信を書き続け上達したり、電動車椅子で通勤した事が印象に残っています。

現在はのんびり過ごしながら、とうたす通信の原稿書きと相談員を行っています。

作業所の皆さん、本当にありがとうございました。

1月号

自分のこと・日常の出来事・社会問題等を綴って
2019年のとうたす通信から

平成の思い出

亀井 賢太郎

僕にとって平成は、激動の時代となりました。

平成6年にあさやけ作業所に入所して、6年後に重度身体障害者グループホーム「一步」に入居しました。また6年後に自立生活「1人暮らし」を始めました。1人暮らしはアパートで6年位過ごした後、車椅子生活をしたと思い集合住宅に移りました。

あさやけに入るまではずっと家に居て、母に面倒を見て貰いながら過ごしていました。母(家族)の時と、他人(職員さんやヘルパーさん等)との生活の違いは大きかったです。40年以上社会との繋がりが無く、知り合いや友人が1人も居ませんでした。あさやけに入った後社会との繋がりが出来、大勢の友達や知り合いが出来た事がとても嬉しかったです。これが平成の思い出です。

僕にとって新しい元号「令和」は、どんな時代になるのでしょうか。まだ始まったばかりなので分かりませんが、良い時代になって欲しいものです。

5月号

生活

柳原 昭三

共同ホーム一步に入居してから、もうじき丸8年になります。入居してから一昨年位まで、このまま一步に住み続けた方がいいかそれとも自立して(一人暮らし)するか悩みました。どうして、一人暮らしをしていない理由の一番大きかったことは、家族の猛反対を受けました。それに対して自分が家族に説得できるような考えを持っていなかったからと感じています。

去年のニュースで65歳以上の高齢者がアパートを借りるのに、保証人がいない、高齢者は部屋を汚くしてしまうなどがあって、アパートがなかなか借りられない高齢者が増えていると現状テレビで見ました。来年僕も65歳になってしまうことを考えると、今、僕は住まいには困っていないので、今の生活を続けてもいいと考え始めました。

僕今、共同ホームという形ですが、介護、食事作る事など、身の周りで、自分だけだとできないことを手伝ってもらいながら生活をしています。

3月号

「世界環境」

古橋 宏章

今年のG20サミットで安倍総理が「海洋プラスチックゴミによる汚染から美しい海を守るためには、世界全体での取り組みが必要であります」発言に、矛盾を感じる沖縄の埋め立て工事を中止にする行動を取らなければ信用出来ません。

世界中のゴミは海を漂流して主にハワイに着きます。プラスチックは自然分解されずアオウミガメや他の生物が袋をクラゲと間違え口にして命を落とす危機があります。世界のプラスチックゴミは年約3億トン以上。不法投棄したり敷地内に捨てたり、「皆捨てているから」ではなく相手の気持ちを考え一人でも意識して持ち帰る心得を持って欲しいです。それに木・紙・食物で自然分解されるストローやコップも考えられています。

サンゴ礁が日焼け止めでも白化現象が起き死んでいる。世界中でサンゴに流れ込む日焼け止め約14000トン。影響を及ぼさない二酸化チタンと酸化亜鉛の日焼け止めを購入して下さい。

11月号

「職員のおめでた」

藤巻 聡美

とうたす班の職員に最近おめでたい事が2つありました。

1つは山口さんに女の子が生まれました。そしてもう1つは斎藤さんが結婚しました。本当に嬉しい事です。斎藤さんおめでとうございます。

私自身、精神的には年よりも幼いので人に本当の年を言うと驚かれます。年齢的に山口さんの赤ちゃんは私の孫でもいいのです。よく、自分の子供より孫の方が責任がなくていいから本当にかわいいと言いますが、私もその気持ちは、解かるような気がします。

でも、じゃあ…おばあちゃんね…と書くとおばあちゃんと言う言葉には半分は謙遜もあるんですけど…と言って抵抗してしまってます。私は赤ちゃんが大好きなので早く赤ちゃんに会って抱っこしたいと思ってます。職員のおめでたとはいながらつい赤ちゃんの事ばかりをかいてしまいました。言い訳の様ですが拙い文をお許してください。

7月号

とうたす通信の紹介
あさやけ風の作業所の印刷を仕事にしている班が「とうたす班」です。そこで地域の人に自分たちの活動を紹介するために発行したのが「とうたす通信」のはじまりです。一九八四年頃から発行していましたが、もう三一九号になり、三十五年続けて発行しています。
今のとうたす通信は、年間六回発行していて、テーマを決めて書いています。今年度は、テーマが三回、フリーが三回です。今年度テーマは、「平成」「今気になっていること」「言語障害」です。フリーの時は、書く人が自由に書けます。
とうたす通信は、ときわ会のホームページから読めます。



作業所内の掲示板で通信の紹介



通信の製作はメンバーの大事な活動

オリジナルキーホルダー作ります

380円



形は丸・四角・ハートから選べます。

☆1個からOK☆

写真、絵、キャラクター、ロゴ、お名前入れなど画像やデータをご持参ください。

お気軽にお問い合わせください!!



お名前入れサービス
お名前入れサービス
お名前入れサービス
お名前入れサービス

青天の霹靂…娘がグループホームに入居しました！

初めてグループホームの見学に行ったのは娘が9才の時。自分の親が既に亡くなっていた事もあり親亡き後の娘と兄の負担が漠然と不安。加えて全く母子分離できていない事に焦りも。しかし見学で時期がくれば子供は独り立ちすると言われたのを良い事に20才過ぎてもショート経験なし。

娘が成人した時は年金や手当、保険や扶養共済の加入など抜かりなくやりましたよ。30才までにグループホームにと支援計画に盛り込んで貰いましたよ。でもでも、21才。こんなに早くチャンスが訪れるとは想定外(笑)20才の時、2才上の兄が就職で独立。玄関前に布団を敷き夜中に泣きながら兄を探しに何度も外に飛び出した娘が、自分の生活の場が一変するのに対応できるのか。候補に拳がった時に家族会議。父、兄はあっさり賛成。一番子離れ出来ていないのは早くから心の準備をしていたはずの母でした。

親はずっとみられない、若い人は順応性が高い、失敗してもやり直しが利くなど周りからの後押しと、作業所選びの時と同様にここなら娘の困った行動にも寄り添ってくれるとの直感で決意。チャンスに感謝しトライする事に。兄の様に自分の意思で独立した訳ではありません。娘も今日からここで生活しますと言われ戸惑いや不安はあったでしょう。計画相談事業所、作業所、余暇活動事業所、グループホーム、主治医が「チームY」(←娘のイニシャル)と化して支えてくれました。そのおかげでスムーズにスタート。

もちろん偏食で食べない、服を破いたり思い通りにならないと手が出たりと色々やらかしていますが、世話人さん達が気持ちを受け入れた上での対策と支援で共同生活をサポートしてくれています。世話人さんに甘える様子や他利用者さんと笑い合う姿を見て娘の世界がまた一つ広がったと嬉しく思います。

市内の重度の知的障がい者のグループホームはまだまだ始まったばかりです。従来の基準では厳しい事もあり福祉サービスの必要性をこれまた「チームY」の皆さんと一緒に市を交えて話し合ってくれました。東村山市とチームYの皆さんに感謝しかありません。今は週末の帰宅時には普段できないドライブや紙破りなど寝る間を惜しみ要求してきます。いなしたり文涉したり要求の度がすぎると正直こちらまもらいます親がフォローできる今で良かったと思います。

若くて体力もある娘のような人達が上手くストレスを発散しながら共同生活を送るには色々なサポートが必要です。これまで家族と過ごした時間より長い年月をホームの皆さんと過ごすはずです。

決してグループホームに入るのがゴールではないのです。親亡き後も「チームY」の皆さんのサポートの元、娘が笑顔で過ごせるよう、良き理解者、支援者そして同じような不安と希望を持つ仲間を輪を広げていく事がこれからの私の役目かなあと考えています。

からの巣症候群にならない母
あさやけ作業所父母 野神 貴子



障がい者施設製品販売が、「ふらっと・まるしえ」にリニューアル！！

就労・生活支援センターほっとが小平市より業務委託を受けている「障がい者施設製品販売」は、就労・生活支援センターほっと登録者で一般就労を目指す方の職場体験実習の機会として、市内の障がい者施設の製品(商品)を市民の皆さまに広く知ってもらう貴重な機会として、さらには就労・生活支援センターのPRとして平成21年度に始まりました。社会福祉法人ときわ会さんでは、あさやけ作業所、あさやけ第二作業所、あさやけ鷹の台作業所、サングリーン・あさやけ風の作業所の各事業所が参加し、製品を提供してくださっています。現在は年に4回、3月・6月・9月・12月のおもに第1週目に、小平市役所本庁舎の受付横に特設ブースを作り、1日2名の訓練生(ほっと登録者)と、「ほっと」の職員が販売を行っています。

これまでは、「小平市障がい者施設製品販売」として実施してきましたが、昨年、小平市役所・障がい者支援課の協力もあって、小平観光まちづくり協会とコラボレーションをすることができ、新しい愛称「ふらっと・まるしえ」が誕生しました。

愛称の「ふらっと」には、①障がいのある人もない人も、一緒に、②ふらっと気軽に立ち寄れる、③小「平」の「平らな」を表す英単語「Flat(ふらっと)」という意味が含まれています。また、「まるしえ」は、「市場」を表す英単語で、「いろいろな製品(商品)が置いてある場所」という意味が込められています。



ウトになっています。

また、このチラシには、「ふらっと・まるしえ」の公認(?)キャラクター「ふらまるちゃん」もお目見え。「ふらまるちゃん」が、「フラダンス」をしているので、ぜひ注目してみてください。

小平市障害者就労・生活支援センター ほっと
施設長 中村 真英



TAKANODAI ART SHOP

手織りマフラー
ウール 100%
植物染料で染めた糸を使用
20×180 cm
価格 5000 円

12月24(火)・25(水)
10:00~15:00
CAZECAFE なかまちにて



温かい手織りマフラー
たくさんご用意いたします。
◎クリスマス、年末の贈り物にどうぞ◎
ご来店くださった皆さんにささやかな
プレゼントがあります。
ぜひおこし下さい。
あさやけ産の台作業所 ART SHOP
小平市小川町1-411
042-346-2167

今年も毎月の廃品回収にご協力ありがとうございました！

～年間の回収量は119トン（2018年1月～2019年11月）でした～

2019年資源回収回収量

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	合計
新聞紙	7,930	8,670	6,685	7,660	8,950	7,020	0	12,520	12,020	5,090	7,100	83,645
雑誌	3,010	2,740	2,310	2,640	3,530	2,180	0	3,385	3,650	2,020	2,220	27,685
段ボール	630	700	670	630	700	610	0	1,060	910	490	630	7,030
ウエス	50	35	80	90	57	50	0	77	80	70	35	624
合計	11,620	12,145	9,745	11,020	13,237	9,860	0	17,042	16,660	7,670	9,985	118,984

※年間回収量は6月の廃品回収が雨で中止になった影響もあり、2018年より12トンの減でした。

廃品回収のお知らせ

11月の廃品回収の回収量は9,985kgでした。内訳は新聞7,100kg、雑誌・ダンボール2,885kgです。収益は123,445円でした。

次回は1月18日(土)が回収日です。

雨天の場合は中止とさせていただきます。